

平成 28 年度第 1 回 焼津市地域公共交通会議 会議録		開 催	日時 平成 28 年 6 月 23 日 (木) 午後 2 時～3 時 40 分
		場 所	焼津公民館 会議室 5・6
協議事項	(1) 平成 29 年度生活交通確保維持改善計画について (2) 下根方地区デマンド型乗合タクシー実験運行について (3) 静岡県生活交通確保対策協議会の分科会となる意向の申し出について (4) 焼津市地域公共交通会議設置要綱の一部改正について		
報告事項	(1) 平成 27 年度自主運行バスの利用実績と運営基準による評価について (2) 平成 27 年度民間路線バスの利用状況について (3) 平成 28 年度自主運行バスの利用状況について		
出席委員 16 名	(公共交通会議) 会 長 半田 充 (焼津市) 副会長 塩沢 英雄 (焼津市自治会連合会) 委 員 長田 雅紀 (しずてつジャストライン(株)) 委 員 田中 茂 (株アンビ・ア) 委 員 平野 洋一 ((一社) 静岡県バス協会) 委 員 高柳 文明 (静岡県タクシー協会志太榛原支部) 委 員 鈴木 成幸 (中部運輸局静岡運輸支局) 委 員 大塚 正訓 (しずてつジャストライン労働組合) 委員(代理) 梶本 英明 (静岡県交通基盤部) 委員(代理) 白石 勝浩 (島田土木事務所) 委 員 村越 英雄 (静岡県焼津警察署) 委 員 鈴木 恒夫 (焼津市自治会連合会) 委 員 遠藤 耕輔 (さわやかクラブやいづ連合会) 委 員 油井 尋治 (さわやかクラブやいづ連合会) 委 員 村上 とき子 (焼津市民生委員児童委員協議会) 委 員 秋山 藤治 (焼津市都市基盤部) (事務局) 篠宮 和行 (都市基盤部都市計画課長) 落合 和弘 (都市基盤部都市計画課公共交通担当主幹) 平田 規善晴 (都市基盤部都市計画課公共交通担当)		
欠席委員 2 名	委員 古桑 容子 (焼津市社会福祉協議会) 委員 新井 恵子 (静岡福祉大学)		
傍聴人	1 名		
議事内容			
会議の成立	委員総数 18 名の内 16 名が出席。過半数を超えているため会議は成立。		
協議事項	(1) 平成 29 年度生活交通確保維持改善計画について ・平成 23 年度より実施されている国庫補助制度「地域公共交通確保維持改善事業」の要件を満たす大井川焼津線と大井川西部循環線の一部の系統について、・昨年度の事業評価に基づき、収支率、利用者数の目標値を定め、平成 29 年度から平成 31 年度の 3 カ年の計画 (案) を作成した。(事務局) ○計画提出後、軽微な修正・変更については事務局に一任するというところで、事		

務局（案）に賛成の方は挙手を願う。（半田会長）

⇒出席委員の賛成総意により承認。

（２）下根方地区デマンド型乗合タクシー実験運行について

- ・今年 10 月から実験運行を開始する下根方地区デマンド型乗合タクシーの運行内容について、昨年度から地域に提案した案をベースに説明会や利用意向アンケートの結果を踏まえ作成。
- ・本格運行への判断基準の一つとして、実験運行における目標値を設定。目標値については、地域との合意形成のため協議を行う。
- ・今年度に入り、タクシー協会を窓口として市内タクシー事業者に運行内容や実験運行の受託について相談し、運行内容及び受託意向について調整が出来た。
- ・今後は、地域への周知と利用登録のための説明会を実施し、併せて地域住民による運営組織を立ち上げる予定。（事務局）

○運営組織の内容はどのようなものか。（鈴木成幸委員）

⇒地域の代表者及び利用者で組織し、目標値や効果の検証、評価改善について協議していきたいと考えている。（事務局）

○ダイヤを見ると通勤・通学利用は難しいようだが、どのように考えているのか。（平野委員）

⇒利用意向アンケートの結果も踏まえ、主な利用目的を高齢者や障害者の方の買い物、通院としている。（事務局）

⇒今後、通勤・通学の利用の要望が出てきたときには検討をしてほしい。（平野委員）

○目標値に稼働率を設定しているが、デマンドであるため稼働率は意味をなさないと考えるが、どのような意図があるのか。（平野委員）

⇒市の事業として実施する以上、ある程度利用者数がなければならない。できるだけ多くの方に利用していただくために、稼働率の目標を設定した。また、稼働率の目標がクリアできなかったからといって、それだけで本格運行をしないという判断はしない。（事務局）

○委託契約については、デマンドを担当する乗務員に不利益にならないよう注意してほしい。また、駅着のダイヤ設定となっているが、迎車の時間設定が難しく、複数の予約がある場合、駅到着時刻に間に合わせようと運転に余裕がなくなる危険も考えられるため、事前に受託者と運行ルートや迎車時間などについて、協議・検討をしていただきたい。（大塚委員）

⇒指摘事項については、受託者と事前に十分協議して問題がないようにしていく。（事務局）

○使用する車両には何かマークなどは付けるのか。（遠藤委員）

⇒デマンドタクシーであることを標記したマグネットシートを付け、一般タクシーと区別することを考えている。（事務局）

○受託意向がないと回答したタクシー事業者は、デマンドタクシーをやりたくな

い、反対という反応であったか（梶本委員）

⇒反対ということではなく、保有する車両台数や営業エリアの関係で受託できないということであった。（事務局）

○設定されたダイヤでは焼津駅で自主運行バスへの乗継は時間が空きすぎているが、この点はどのように考えているのか。（大塚委員）

⇒焼津駅での乗り継ぎについては、便数が多い民間路線バスを想定している。また、アンケート結果から焼津駅周辺や静岡方面への利用が多いと思われる。（事務局）

○事前登録制とのことだが、受付はいつから始まるのか。また、会員証のようなものは発行するのか。（遠藤委員）

⇒現在調整中の利用説明会の中で受付を開始したいと考えており、早ければ7月中旬になると思われる。また、登録者には会員証を発行する予定である。（事務局）

○事務局（案）に賛成の方は挙手を願う。（半田会長）

⇒出席委員の賛成総意により承認。

（3）静岡県生活交通確保対策協議会の分科会となる意向の申し出について

・静岡県生活交通確保対策協議会の分科会となることで、路線退出事務の手続きが簡略化される。今後の再編を見据え、分科会となる申し出をしたい。（事務局）

○事務局（案）に賛成の方は挙手を願う。（半田会長）

⇒出席委員の賛成総意により承認。

（4）焼津市地域公共交通会議設置要綱の一部改正について

・軽微な事案又は緊急に協議が必要な議事が生じた場合、速やかに一同に会して協議をできないおそれがあるため、書面により賛否を求め議決に代えることができることを明文化するもの。（事務局）

○軽微な事案の判断は事務局がするというのでよいか。（平野委員）

⇒事務局で判断することになるが、減便や運行範囲の縮小など利用者にとって不利益となるような事案は軽微な事案ではないと考えている。（事務局）

○基本は会議を招集して協議するというので、どうしても時間の調整がつかない場合にやむを得ず書面協議とするようにしてほしい。また、その場合にも各委員にきちんと説明した上で承認を得るようにし、そのプロセスを経ていることを報告してほしい。（梶本代理）

○事務局（案）に賛成の方は挙手を願う。（半田会長）

⇒出席委員の賛成総意により承認。

報告事項	<p>(1) 平成 27 年度自主運行バスの利用実績と運営基準による評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は全体として前年度に比べ増加し過去最高となったが、大井川西部循環線は減少した。運行経費は若干増加したが、運賃収入の増加幅が大きく、運行経費に対する運賃収入の割合を示す収支率は若干改善した。運行経費から運賃収入及び国県補助金を差し引いた市実質負担額は若干減少したが、今後、国庫補助額が減少する見込みであり、負担額が増加する恐れがある。 ・運営基準による評価については、焼津循環線と大井川焼津線は基準を満たしたが、大井川西部循環線は基準を満たさなかった。西部循環線は一昨年度以降基準を満たしていないため、昨年同様地域の方に参加と協力を求め利用促進に努めるとともに、新たな経費削減策についても検討する必要があると考える。(事務局) <p>※運営基準に記載されている経費削減策：「減便」「隔週運行」「運行範囲の縮小」「デマンド方式による運行」「運賃の改定」など</p> <p>○利用者が増加した要因はどのようにとらえているのか。(梶本代理)</p> <p>⇒土日祝日の利用増と、さかなセンターと焼津駅前利用が増えていることから、休日の焼津駅、さかなセンター間の利用増が要因の一つと考えられる。また、沿線自治会において、イベントなどで利用していただいていることも要因であると考えている。(事務局)</p> <p>○大井川西部循環線については、時間帯やバス停間の利用状況など詳しい分析をしてほしい。また、地域の方には、このままの状況では減便やデマンド化などサービスの縮小もあり得ることを事前に示しながら説明をしてほしい。(平野委員)</p> <p>(2) 平成 27 年度民間路線バスの利用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内を運行する 6 路線については、全体として昨年度に比べて利用者は増加した。焼津大島線は学生利用の増加に伴い増加しているが、一色和田浜線は昨年同様減少傾向が続いている。 ・路線バスへの市補助金額は前年度に比べ減少したが、事業者の経費が上昇傾向にあり、今後補助額の増加が見込まれる。なお、藤枝相良線について事業者より関係市町による強調補助の申し出があり、通勤・通学利用も多い路線であり、路線維持に向け関係市町で協議をしていく予定である。(事務局) <p>(3) 平成 28 年度自主運行バスの利用状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に前年同期に比べ利用人数、収入ともにやや減少。特に、大井川西部循環線は、土日祝日便の運休の影響で利用者数及び収入とも減少。焼津循環線及び大井川焼津線は、平日の利用者が昨年よりも減少したが、詳しい要因は特定できていない。大井川地区には、自主運行バス路線図を新聞折込にて配布し、今後自治会毎の時刻表の配布を行うなど、引き続き利用促進に努める。 ・5～6月に実施した乗降調査の結果について、焼津循環線は大人の女性の利用が多い。利用頻度は週1日以上が7割程度ある一方、初めての方も1割弱あった。利用目的は通勤、通院、通学、観光と幅広く利用されている。
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・大井川焼津線は大人の女性の利用が多く、週1日以上利用される方が9割以上。利用目的は買い物が最も多く、イオンやグランリバーへの買い物の足として利用されている。また、高校生の通学や市立病院で他の路線へ乗継利用もあった。 ・大井川西部循環線は、ほとんどが女性の高齢者であり、約6割が週1日以上利用している方であった。利用目的は通院、買い物が多く、市立病院での乗降が7割以上を占めていた。市立病院で他の路線へ乗継利用もあった。 ・利用者からのご意見では、「車が運転できなくバスがあって助かっている」「雨の日に利用している」「なくなると困る」といった声がある一方、増便や運行範囲の拡大などを望む声もあった。(事務局) <p>○自主運行バスの主なターゲットはなにか。(梶本代理)</p> <p>⇒焼津循環線は通勤、通学、買い物、観光など幅広い客層をターゲットとしている。大井川地区の2路線については、平成22年度に実施したアンケート調査の結果に基づき、主に通院、買い物をターゲットに時刻や運行エリアを設定している。(事務局)</p> <p>○大井川西部循環線はJRへの接続がないため利用が少ないと思われるが、市立病院や大井川庁舎など主な乗降場所で、駅に接続した他の路線に乗継が可能な時間設定となっているのか。(塩沢委員)</p> <p>⇒現在、焼津駅、西焼津駅については他の路線への乗り継ぎを考慮した便の設定がある。藤枝駅については、平日の朝晩つつじ平団地に藤枝市の自主運行バスが来ているが、大井川西部循環線から乗り継げる時刻ではないため、他の地区からは藤枝駅に行くことはできない。(事務局)</p> <p>○現在、焼津中央高校、豊田中学の周辺にバス路線がない。この地域は住宅が増えており、引っ越してきた方から「バスがない」という声をよく聞く。人口増加エリアでもあり、是非バスの導入を検討してもらいたい。(遠藤委員)</p> <p>⇒公共交通空白地域への対応は、市全体の公共交通ネットワークを見ながら、総合連携計画等の中で検討していく。(事務局)</p>	
会議録 配布先	情報公開コーナー・市HP	作成者 都市計画課 平田